

令和7年度 第4回 鳥取市男女共同参画審議会 議事概要

- 1 開催日時 令和8年1月27日（火）13時30分から14時20分
- 2 開催場所 鳥取市役所 本庁舎7階 全員協議会室
- 3 出席委員 徳田 純子（会長）、福田 克彦（副会長）、
山崎久美子、森下裕一、中井みずほ、嶋田耕一、坂出典子、谷口真澄、
吉村 雅子、岡田節子、小林 明子
- 4 傍聴者 なし
- 5 報 告 （1）第5次鳥取市男女共同参画かがやきプラン（案）に対する市民政策コメントの結果について
- 6 議 事 （1）第5次鳥取市男女共同参画かがやきプランの答申（案）について
（2）その他
- 7 主な意見

報告（1）第5次鳥取市男女共同参画かがやきプラン（案）に対する市民政策コメントの結果について

事務局より市民政策コメントの結果及び市の考え方を説明。

（事務局）プランの修正はせず参考意見とし、市民政策コメントの一部にあったような、男女共同参画の取り組みに対して不安を抱える人が少しでも減るよう理解促進に努めたい。

委員からの意見なし。

議事（1）第5次鳥取市男女共同参画かがやきプランの答申（案）について

事務局より第3回男女共同参画審議会での意見等により変更になった点を改めて説明。

（委員）先日、鳥取商工会議所の会議で、男女共同参画課長より、男女共同参画推進の取組について説明があった。次回、男女共同参画推進の取組に関して鳥取商工会議所へお越しいただく際には、テーマ2を中心にお話しいただくとよいと思う。市内にあるのは「鳥取商工会議所」であるため、「鳥取」を明記することで、お互いに責任を共有し、取組の推進につながるのではないかと考える。

（事務局）本プラン案の29ページの、目標3「働く場における女性の活躍推進」について、2箇所に記載している「商工会議所」を「鳥取商工会議所」と記載の変更させていただきたい。

（会長）答申（案）について、「商工会議所」を「鳥取商工会議所」に修正することについて、お諮りする。

（委員）異議なし

（会長）「商工会議所」を「鳥取商工会議所」へ修正することに決定する。

（委員）一人ひとりに光を当てることが根幹で、小さな言葉に現れた無意識の差別をなくしていく必要があると思う。自分自身も実行していきたいと思う。

（委員）性別の表現について、私自身も意識していかなければならないと感じた。

- (委員) 特に意見なし。全体的にまとまっていると思う。
- (委員) 鳥取市男女共同参画登録団体に所属しているが、自分も他の方と一緒にあって、男女共同参画が進むように取り組んでいきたいと思った。
- (委員) 改めてプランを見て、学校教育の現場ではこれからの社会を支えていく子どもたちを育てていくという大きな責任がある。その子どもたちを預かる者は、気を引き締めて教育にあたっていかなければならないと感じた。
- (委員) プランをしっかりと読み込んで、男女共同参画社会の実現ができたらと思う。
- (委員) 労働局は女性の活躍推進を進めてきているが、これは突然職場や社会に出てから始まるものではなく、これまでの教育や地域における男女共同参画などすべてを集約した形が職場に現れていると考えている。このように全体として取組を進めていくことは非常に有意義だと思う。労働局としても、女性の活躍推進に向けて、積極的に進めていきたい。
- (委員) 情勢の変化により、プランの内容に影響が生じることがあるのか。
- (事務局) 毎年審議会を開催し、審議委員の皆さんに進捗状況を報告していく中で、内容を見直す必要がある場合は、修正等を行うことがある。プランは、これまでの審議会での御意見や市民政策コメントを経て、策定に至っている経過もあり、大きく変えることは想定していない。
- (会長) 本プランは、国や県の方針、また鳥取市の現状を踏まえて策定するもので、大きく変わることはない。多くの施策がある中で（年によって）重点的に進める施策が変化する可能性はあると考えるが、審議会としては5か年の答申をするものと承知している。

事務局よりプランの位置付けの図について、教育委員会事務局からの提案に基づき「鳥取市人権教育基本方針」を追記する旨説明。

- (委員) 鳥取市人権教育基本方針を受けて、現在各学校での人権教育を編成している。このプランの表の中に入るということは、各校において事業計画の推進ということに関わってくるため、学校教育の立場のものとすると大変意義がある。
- (委員) 教育は本当に大切だと、市民政策コメントをみて感じた。正しい知識がないまま誤解が生じたままで、反対の動きが起きてしまうことが危惧される。鳥取の未来を左右することにもなるため、若い世代に期待している。また、全国学力状況調査に関する新聞の記事の理科において、学力の点数は男女で変わらないにもかかわらず、女子が得意と答える率が男子より低いと掲載されていた。思い込み（バイアス）により、可能性を狭めるということがないようにしていただきたい。
- (委員) 理系に進む女性が少ないというのは、全国的に大きな課題である。学力の点数は男女で変わらないのに、理系を選ばない状況は外的要因が関わってくると考えられる。小さいころの教育のあり様は大切だと思う。これらは大人の責任でもあるため、本プランがその役割を果たせたらと思う。

議事（２）その他

事務局より今後のスケジュールを説明。

- (事務局) 答申は、2月3日（火）に、審議会を代表して徳田会長と福田副会長が行う予定。委員の皆様には文書で報告する。

委員からの意見なし。

閉会 14:20